

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン				令和 6 年2月28日現在 江戸川区立瑞江小学校	
令和 8 年度までの目標		国語		算数	
		自校AB層の割合	55%	自校AB層の割合	50%
目標達成に向けた取組					
3つの観点	教員の指導力向上		基礎学力の保障		学習習慣の確立
学校全体の取組	・弛まぬ教材研究 ・学年間での意見交換と連携 ・学習テキストやワークシートの共有 ・校内研究への積極的参加 ・教科担任制の推進 ・授業参観への積極的参加		・朝学習での既習学習の復習 ・定期的な漢字テストの実施 ・デジタルドリルの活用 ・月 1 回の意見文トレーニングの取り組み ・週 2 回の朝学習の実施		・保護者会や学年だよりを通して保護者への働きかけを行い家庭との連携を図る。（家庭の宿題チェック） ・3年生～6年生は自主学習を家庭学習で実施 月 1 回自主学習ノートの代表を学校に掲示 ・一人一台端末、デジタルドリルの積極的な活用 ・「江戸川っ子study week」ドリルパークの活用
特に支援が必要な児童への手立て	・解こうとする姿勢や、解答したことを称賛して、自信をつけさせたり、楽しさを実感させたりする。 ・発問やワークシートを工夫することで、一人一人が考えを持てるようにする。 ・校内研修（瑞江塾）などでの情報交換をする。 ・対象児童が自信をもって答えることのできる質問、発問をつくり、自己肯定感を高める。 ・①実態把握②特性の理解③目標設定④支援のサイクルを意識して指導をする。		・東京ベーシックドリルの診断結果に基づいた宿題、朝学習や補習の実施をする。 ・単元内で習熟度の確認を行い、取り残しをないようにする。 ・学期や年間を通して、児童の課題を把握し、復習したい事柄について、授業の帯で学習活動を設定する。 ・漢字の音読、九九の歌、都道府県の歌、外国語のチャンツなど、声に出す機会を増やす。 ・課題の出題数を調整し、集中して取り組めるようにする。 ・実態に応じて児童がDaisy（デジタル図書）を活用できるようにする。 ・紙媒体かタブレットか表現方法を選択できるようにする。		・児童の実態に合わせた課題の設定 ・個別の声掛けと支援 ・個別の学習状況や課題を保護者と共有し、家庭との連携を図る。 ・視覚的に理解できる学習掲示 ・「意見文」「各教科のノート」など児童の取り組みを紹介し、学習習慣の意識を高める。
成果指標	・全国学力調査質問用紙「自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」肯定的な回答割合が70%以上を目指す。		・ベーシックドリルの診断テスト正答率70%以下の層を下記の割合におさえる。 低学年 10% 中学年 15% 高学年 35%		令和5年度保護者アンケート（学校評価） 14「毎日、宿題や、家庭学習をしていますか。」 （結果）→（目標） （高学年）85%→90% （中学年）85%→90% （低学年）86%→90%